

本時のねらい

- ・今までに学んだ表現を使って、自己紹介を考えることで、自分のことを英語で表現することができるようになる。
- ・自分のスピーチを客観的に見ながら試行錯誤し、より良いスピーチをめざすことで、自分のことを相手に伝え表現することができるようになる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・自分のことを伝える原稿を作るにあたって、「自分らしさ」を出せるよう、まだ習っていない表現については調べながら進める。
- ・自身のスピーチを録画しながら練習することで、改善点を見出し、スピーチ本番に活かすことができる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレット PC
- ・大型 TV
- ・学習支援ソフト（ロイロノート）

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○前時に使用していたスピーチの評価基準表を用いてスピーチの要点（抑揚・アイコンタクト・ジェスチャー・声の大きさ）を全体で確認する。 ○ALT が事前に録画していた模範スピーチを、ロイロノートで生徒に送信し、見て確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートで評価基準表を配付する。スピーチの要点を確認することで、めざすゴールを確認しておき、この後の展開につなげる。 ・ロイロノートで送られてきたスピーチを見る。（前時に実演しているため、今回は動画を送信し、何度も見られるようにして、生徒が試行錯誤しながら改善していけるようにする。）
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ○前時に引き続き、スピーチ原稿の作成をすすめる。（個人での活動ではあるが、分からないことや困ったことがあれば、近くの人や先生に質問してもよいことを伝える。） ○完成した生徒から、繰り返しスピーチの練習を行う。完成度が上がってきたら何度も録画しながら、より良いスピーチになるように改善していく ○ペアでスピーチを見せ合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット上の辞書を活用（翻訳は使わないように指導） ・ロイロノート上で録画し、録画したものを消さずに何度も練習（消さずに練習し、後ほど確認することで自身の成長にも気づかせる。振り返りにも活用。） ・実際にスピーチを聞いてもらい他者評価をもらうことで振り返り活動につなげる。 ・練習した中で1番よいものを提出する。（改善しながら練習を重ねられるようにする。）
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○自身の振り返り、自己評価と、ペアのスピーチについての評価をロイロノートのアンケート機能を使用して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り、自己評価、ペアの評価について、アンケートに答える。 ・最後にその結果を全体で共有し、次時のスピーチに役立てる。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：タブレットを活用し、知らない単語を調べながらスピーチ原稿を作成している場面



写真2：何度も練習し、録画している場面



写真3：まとめの場面で、自身の評価やペアの評価を行っている場面

児童生徒の反応や変容

- ・ウェブの辞書は音声も聞くことができるので、個人学習には紙の辞書を使うよりもわかりやすいという声があった。
- ・録画して自分の発音を客観的に聞くと、「まだ英語っぽくない」と反応したり、細かな発音に気を配ったりするようになった。
- ・何度も録画して、一番良いものを提出させることで、単なる練習よりも前向きに練習を重ね、質にこだわって練習するようになった。
- ・アンケート（評価）の集計結果がすぐに出るので、周りの進捗や考えがわかり、次回の授業に活かすことができていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・知らない単語を自由に調べる活動を取り入れたことでスピーチに自分らしさを出すことができた。
- ・スピーチに向けた練習には、タブレットを活用するとより効果的であった。